

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	大和不動産鑑定株式会社
渋谷(都) 5 - 12	東京都	区部第3	氏名	不動産鑑定士 川井 祐二

鑑定評価額	174,000,000 円	1㎡当たりの価格	1,510,000 円/㎡
-------	---------------	----------	---------------

1 基本的事項

(1)価格時点	令和 5年 7月 1日	(4)鑑定評価日	令和 5年 7月 5日	(6)路線価	[令和 5年1月]	1,180,000 円/㎡
(2)実地調査日	令和 5年 6月 19日	(5)価格の種類	正常価格		路線価又は倍率	倍率種別
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1)基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等	渋谷区初台一丁目3番10外「初台1-38-11」				地積(㎡)	( 115 )	法令上の規制等
	形状	敷地の利用の現況	周辺の土地の利用の状況	接面道路の状況	供給処理施設状況	主要な交通施設との接近の状況	近商(80,300)準防高度(3種最高20m)(その他)	
	台形 1:2	店舗、事務所兼住宅 RC 5F 1B	中層店舗ビル等が建ち並び駅前商業地域	南西9.7 m 区道	水道、ガス、下水	初台近接	(90,300)	
(2)近隣地域	範囲	東 20 m、西 30 m、南 70 m、北 15 m			標準的使用	中層店舗兼共同住宅地		
	標準的画地の形状等	間口 約 10 m、奥行 約 15 m、			規模	150 m程度、形状 長方形		
	地域的特性	特記事項	特記すべき事項はない。	街路	9.7 m 区道	交通施設	初台駅 南東方近接 法令 近商(90,300)準防高度(3種最高20m)	
(3)最有効使用の判定	中層店舗兼共同住宅地				(4)対象基準地の個別的要因	ない		
(5)鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法	比準価格	1,630,000 円/㎡					
	収益還元法	収益価格	1,430,000 円/㎡					
	原価法	積算価格	/ 円/㎡					
	開発法	開発法による価格	/ 円/㎡					
(6)市場の特性	同一需給圏は渋谷区及び隣接区における鉄道沿線各駅から概ね徒歩圏に存する近隣商業地域である。主な需要者は自己使用目的の事業者のほか、個人、法人投資家、不動産業者等である。規模の小さい画地も見られるが、最寄駅に近接する立地条件から利便性は高く、店舗のほか賃貸用マンション等の住宅系用途としての需要も堅調である。画地規模、容積率等により価格水準は大きく異なり、中心となる価格帯を把握することは困難である。							
(7)試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	比準価格は同一需給圏内の類似地域に存する事例を採用したもので、市場の実勢を反映した実証的な価格が求められた。収益価格は収益性を的確に示す理論的な価格である。商業、住居が混在する駅近くの商業地域にあり、投資用不動産としての需要も見込まれ、収益性について検討する市場参加者も認められる。したがって、本件では、比準価格と収益価格を関連づけ、さらに公示価格を規準とした価格との均衡に留意して、鑑定評価額を上記の通り決定した。							
(8)公称価示標準価格と格しをた	代表標準地 標準地	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の規準価格(円/㎡)	内 街路 0.0 交通 0.0 環境 0.0 画地 0.0 行政 0.0 其他 0.0	
	渋谷 5 - 8	[101.9]	100	100	[100.0]	1,510,000	地 街路 -4.0 域 交通 -4.0 要 環境 -21.0 因 行政 0.0 其他 0.0	
(9)指か定ら基の準検地討	指定基準地番号	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の規準価格(円/㎡)	内 街路 0.0 交通 0.0 環境 0.0 画地 0.0 行政 0.0 其他 0.0	
	-	[ ]	100	100	[ ]		地 街路 0.0 域 交通 0.0 要 環境 0.0 因 行政 0.0 其他 0.0	
(10)対年象標の基準検準価討地格の等前か	- 1 対象基準地の検討 継続 新規 前年標準価格 1,450,000 円/㎡		価格変動形状要因	一般的要因	景気は緩やかに回復している。金融引締めが続く海外の景気下振れリスクや物価上昇、金融資本市場の変動等に注視する必要がある。			
	- 2 基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討 代表標準地 標準地 標準地番号 - 公示価格 円/㎡				[ ]	100	[ ]	100
変動率	年間 +4.1 %	半年間 %	個別的要因	個別的要因に変化はない。また、代替・競争の関係にある不動産と比較して、市場競争力の点で大きな優劣はないと判断する。				